

笠松町 2氏に名誉町民章

杉山幹夫氏、松波英一氏

昨年12月に羽島郡笠松町の名誉町民に選ばれた岐阜新聞社最高顧問の杉山幹夫氏(94)と松波総合病院名誉院長の松波英一氏(91)の名誉町民章授与式が18日、町役場で開かれ、2人の功績をたたえた。

式には、町議や自治会、町商工会関係者ら約30人が出席。古田聖人町長は「杉山氏は新聞や放送を通じ、岐阜のメディアをけん引されてきた。松波氏は東海圏域の医療の中核となる病院の礎を築かれた」と功労をたたえ、「笠松の歴史を今



飾られた自身の肖像画の前に立つ杉山幹夫氏(左)と松波英一氏(中央)＝笠松町役場

に伝えていただける2人は町の宝。共に90歳を超えて

今もなお現役で活躍されている姿は高齢化社会のお手本である」とあいさつした。古田町長から表彰状や名誉町民章を受け取った杉山氏は「大変名誉あるものを、子どもの頃からの盟友であ

る松波氏と同時に頂けたことはうれしい。今後も報道で少しでも古里笠松のお役に立ちたい」。松波氏は「昔のように人が集まる繁栄した笠松を取り戻してほしい。これから先も生きる限りは町に貢献したい」と郷土への思いを語った。町役場1階ロビーに飾られた2人の肖像画の除幕式もあった。名誉町民は計4人になった。(長尾剛次)